

防災と減災について



Avenir

2019 Aug.

- ・ 防災とは？減災とは？
- ・ 地震への備えとは？
- ・ 津波への備えとは？
- ・ 風水害への備えとは？
- ・ 備蓄と非常時持ち出し品
チェックリスト
- ・ オフィスでの防災とは？

防災とは？減災とは？

防災とは、地震や水害等の**自然災害に備える事**です。
減災とは、災害による被害を
できるだけ小さくする取り組みの事です。

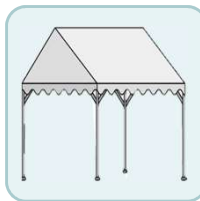


3つの連携が
円滑なほど、
災害の被害は軽減！



自助

個人・家族 等
一人ひとりが自ら取り組む事



共助

町会・ボランティア・事業所 等
地域や身近にいる人どうしが一緒に取り組む事



公助

消防・警察・自衛隊・行政機関 等
国や地方公共団体などが取り組む事

地震への備えとは？

日本には約2000の活断層があると言われており、
日本のどこにいても地震を経験する可能性があります。

家具の固定

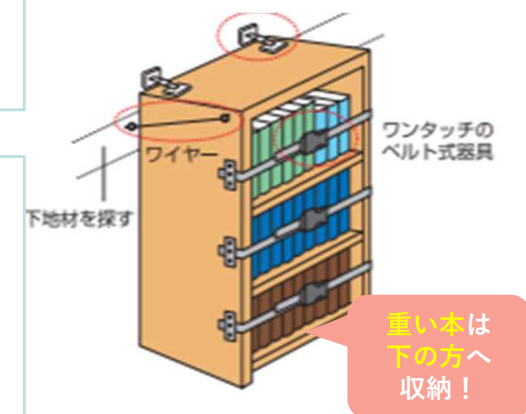
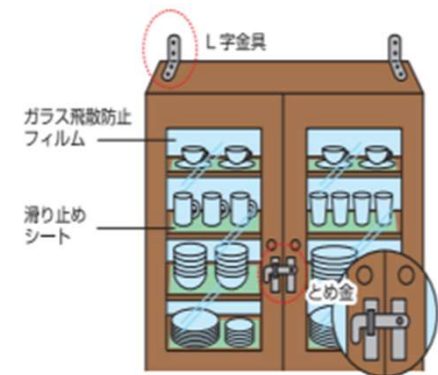
- ・つかえ棒やストッパー、L字金具、ワイヤー、粘着マット等の活用

家具の配置

- ・寝室等長時間過ごす部屋にはできるだけ家具を置かない、または、背丈の低い家具にする
- ・家具が倒れても直撃しない、または、出入り口をふさがないように工夫する

身の守り方

- ・屋内：机の下に隠れる
- ・屋外：丈夫なビルの中に入る、看板やガラス窓から離れる
- ・人が大勢いる施設：陳列棚から離れる、カバン等で頭を保護する



津波への備えとは？

海底下で大きな地震が発生すると、断層運動によって津波が発生し、**海岸から内陸部にかけて被害**をもたらします。

津波の第1波・第2波…

- ・必ずしも、第1波が最も高いわけではない。津波は繰り返し押し寄せ、第2波・第3波が最大となることもある。

津波警報・津波注意報が出たら

- ・陸上に駆け上がった津波は高さが50cm程度でも人が立っていられなくなるほどの強い力に。海岸に近づかず、すぐに避難すること。

種類	発表基準
大津波警報	3mを超える場合
津波警報	1mを超え、3m以下の場合
津波注意報	0.2m以上、1m以下であって、津波による災害の恐れがある場合



津波注意



地震により津波が襲う危険のある地域であることを示します

津波避難場所



津波に対して安全な避難場所高台であることを示します

津波避難ビル



津波に対して安全な避難ビルであることを示します

風水害への備えとは？

近年、全国各地で竜巻などの突風や短時間強雨（ゲリラ豪雨）が頻発し、大きな被害が発生しています。

最新の情報を入手

- ・台風や集中豪雨など、災害が発生するおそれが高まった時は、HPやテレビ、ラジオ、防災無線などで確認

避難する時には

- ・危険が迫る前に避難
- ・避難する事を必ず誰かに伝える
- ・サンダルや長靴は危険な事もあり、必ず靴を履く
- ・持ち物はリュックに入れ、両手が使えるようにする
- ・水中を歩く時は、側溝やマンホールにはまらないよう、長い棒等で確認
- ・強風や水の深さが膝上まであるときは、無理をして避難所へ行くよりも、2階等高い所にとどまる方が安全な場合もあり

水の状態は
変化しやすい！



種類	発表状況・内容
注意報	災害が起こるおそれのある時
警報	重大な災害が起こるおそれのある時
気象情報	警報・注意報に先立つ注意喚起や警報・注意報の補完など
台風情報	台風の実況、最大瞬間風速、暴風域、強風域の予報（72時間先まで）
土砂災害警戒情報	大雨による土砂災害発生の危険性が高まった時、市町村長が避難勧告等を発令する際の判断や住民の自主避難の参考となるよう、都道府県と気象庁が共同で発表する

備蓄と非常時持ち出し品チェックリスト

防災のための備蓄品の他、**災害時の持ち出し品**も準備しておきましょう。大規模災害発生時には、「1週間分」の備蓄が望ましいとされています。

備蓄

飲料水3日分（1人1日リットル目安）

非常食3日分

（ごはん・アルファ米・ビスケット・板チョコ・乾パン 等）

貴重品（通帳・印鑑・現金）

トイレットペーパー、ティッシュペーパー

マッチ・ろうそく・カセットコンロ



トイレを流したりするための生活用水も必要。日頃から、水道水を入れたポリタンクを用意する、お風呂の水をいつも張っておく、等の備えをしておきましょう！

非常時持ち出し品

飲料水

食品

貴重品（通帳・印鑑・現金）

救急用品

軍手

懐中電灯

下着

予備電池

マッチ・ろうそく

ウェットティッシュ

常備薬

入れ歯・補聴器 等

オフィスでの防災とは？

社会人が一日の大半を過ごすオフィスで被災する可能性は少なくありません。オフィスの防災は、「自助」の意識を持って、社員自ら取り組む必要があります。

オフィス防災

パソコンの転倒防止とデータのバックアップ

避難経路を確保

オフィス家具の固定

危険物の安全確認と消火器の準備

非常用物品や救出用資器材等を備蓄

帰宅困難者対策

任務分担を決める

情報収集・伝達方法を確認

安否確認方法を検討する

自宅までの
距離が20km
以上の人！

入手した情報は、
情報の混乱をさける
ために「情報連絡担
当者」が取り
まとめて社員に伝達



革靴やハイヒールではなく、
スニーカーを準備
しておきましょう！



日頃の分担

- ・防災責任者
- ・火元責任者
- ・建物&施設
- ・消火器
- ・防災訓練 等

災害時の分担

- ・責任者（リーダー）
- ・初期消火
- ・情報連絡
- ・避難誘導
- ・救出&救護 等